

表-6.10.2(5) 改変区域内において確認された重要な種の生息状況に基づく変化の程度の検討(河川水生生物)(その2)

++:2~10個体未満 +++:10~100個体未満 ++++:100個体以上

No.	分類 和名	国外、国内、沖縄県での分布状況 (亜種については同一亜種の分布情報)			石垣島内における生息状況		注6 現空港予定地関連調査			重要な種の分布及び生息状況の変化の程度	指定及び選定状況				
		注1 国外	注2 国内	注3 沖縄県	注4 石垣島内	注5 生息状況 石垣島内での ランク	改変区域外	改変区域内			合計	法的 規制	その他		
								調整池 場	沢				注7 天然記念物	注8 環境省	注9 沖縄県
10	イボアキワナ	台、ボリネア、インド-オーストラリア地域	奄美大島	沖、石、西、与	広範に生息するものと推定される。個体数は普通。県内に広範に分布する種である。沖縄島では産地は点在するものの各所で観察され、生息地での個体数は全般に多い。	C	++++	++++	++++	石垣島内の広範に生息するものと推定され、個体数は普通であり、調査範囲においては100個体以上が確認されている。このうち、改変区域内では100個体以上が確認されたが、改変区域外においても100個体以上が確認されていることから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれはないものと考えられる。	準			危険	
11	クルマヒラメギカイ	中、台、朝、等	本土、北琉球?	中・南琉球	広範に生息するものと推定される。個体数は少ないと推定される。県内に広範に分布する種である。沖縄島では産地、個体数共に少ないながら各所で観察される。	B	++++	++	++++	石垣島内の広範に生息し、個体数は少ないと推定されるが、調査範囲では100個体以上が確認され、その殆どが改変区域外での確認であり、改変区域内での確認は数個体と少ないことから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれはないものと考えられる。	II				

注1. 分布状況(国外)
中:中国 台:台湾 朝:朝鮮半島

注2. 分布状況(国内)
小笠原:小笠原諸島 北琉球:三宅線(種子島)~渡瀬線(トカラ列島中部)

注3. 分布状況(沖縄県)
沖:沖縄本島 久:久米島 宮:宮古島 石:石垣島 西:西表島 与:与那国島 琉:琉球列島
中琉球:渡瀬線(トカラ列島中部)~峰須賀線(沖縄諸島)、南琉球:峰須賀線(沖縄諸島)以南の琉球列島

注4. 石垣島内における生息状況について
知見は詳細に記述するが、分布や個体数の定性的表現は以下の表記とする。
(分布)広範:概ね全域に分布、局所的:生息地が限定、局地的:生息地がきわめて限定
(個体数)多い:普通/少ない:きわめて少ない...点

注5. 石垣島内での生息状況ランク
Aランク:分布や個体数が限られ、特に保護の必要性が認められる種(分布・個体数双方が少ない種や局所性種、個体数の極めて少ない種)
Bランク:分布・個体数の片方が限られるもしくは少ない種、また分布や個体数の双方がやや限られる種。
法的規制種:分布や個体数情報が不明であり念のため保全に努める必要性の認められる種
Cランク:その他の貴重種

注6. 現空港予定地関連調査
++ :2~10個体未満。
+++ :10~100個体未満。
++++:100個体以上。
現地において、調査員が目視により確認した個体数を示す。

注7. 天然記念物:「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)
特→特別天然記念物 国→国指定天然記念物 県→県指定天然記念物

注8. 環境省:「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-哺乳類」(2002年 環境省)
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-爬虫類・両生類」(2000年 環境省)
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-鳥類」(2002年 環境省)
「無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて」(2000年 環境省)

I A→絶滅危惧 I A類(絶滅の危機に瀕している種-ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)
I B→絶滅危惧 I B類(絶滅の危機に瀕している種-I A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
II→絶滅危惧 II類(絶滅の危険が増大している種-現在の状態をたまたま圧迫要因が引き続き作用する場合、
近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの)
準→準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種-現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧 I」として
上位ランクに移行する要素を有するもの)
地域→地域個体群(地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群)

注9. 沖縄県:「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック」(1996年 沖縄県)
危惧→絶滅危惧種(絶滅の危機に瀕している種または亜種)
危急→危急種(絶滅の危機が増大している種または亜種)
希少→希少種(現在のところ「絶滅危惧種」にも「危急種」にも該当しないが、生息条件の変化によって容易に上位のランクに移行するような脆弱性を有するもの)
地域→地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)

注10. WWF:「底生生物各種の分布の状況」(1996年 WWF Japan)
絶滅→野生状態でどこにも見あたらなくなった種
絶滅寸前→人為の影響如何に関わらず、個体数が異常に減少し、放置すればやがて絶滅すると推定される種。
危惧→絶滅にかけて進行していると見られる種、今すぐ絶滅という危険に瀕するということはないが、
現状では確実に絶滅の方向へ向かっていると判断されるもの
希少→特に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種。

<引用文献>
・「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータおきなわ)」(1996年 沖縄県環境保健部自然保護課)
・「WWF Japan Science Report(Vo.3)日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状」(1996 WWF Japan)
・「琉球列島の水生半翅目」(林正美)
・「琉球列島の陸生生物」(西島他、2003年 東海大学出版会)
・「改訂版・日本のゲンゴロウ」(森・北山、2002年 文一総合出版)
・「原色日本トコ幼虫・成虫大図鑑」(杉村他、1999年 北海道大学図書刊行会)
・「クマノマボタル生息実態緊急調査報告書(沖縄県天然記念物調査シリーズ第37集)」(1997年 沖縄県教育委員会)
・「久米島総合調査報告書」(1994年 沖縄県立博物館)
・「奄美大島産陸水生物類相(兵庫陸水生物、51-52)」(増田他、2000 兵庫陸水生物)

・「琉球列島の陸水生物類相」
・「台湾の淡水・汽水産アマノガイ類相」(Venus, Vol.45, No.3)(小松、1996 日本貝類学会)
・「仏領ボリネアの淡水産貝類の分類と分布」(Venus, Vol.49, No.3)(Jean-Pierre Pointier et al, 1990 日本貝類学会)
・「Systematic studies on the non-marine mollusca of the Indo-Australian Archipelago」(Treubia, Vol.23, Part2)(W.S.S. Van Benthem Jutting, 1956)
・「日本産魚類検索 第2版」(中坊徹次編、2000 東海大学出版会)
・「原色日本大型甲殻類図鑑(II)」(三宅祥、1983 保育社)
・「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(III)」(日本水産資源資源保護協会、1996)
・「新石垣空港(宮良地区)環境影響予評価委託業務報告書(概要版)」(沖縄県、1997)